

日本青年館・大日本聯合青年団民俗学関連刊行物

丸山 泰明

解題

日本青年館編『郷土舞踊と民謡』日本青年館、全10冊、1925～1936年

日本青年館にて開催された「郷土舞踊と民謡の会」にて上演された各地の郷土芸能を解説した冊子である。「郷土舞踊と民謡の会」とは1925（大正14）年10月の日本青年館の開館式の際に行われた催しが第1回目となり、その後ほぼ毎年開催され、1936（昭和11）年までの間に合計10回開催された。休止したのは、大正天皇が崩御した翌年である1927（昭和2）年と、満州事変が勃発した翌年である1932（昭和7）年のみである。構成は、まずはじめに各地の郷土芸能についての写真があり、その上で、各芸能についての名称、実際の演じられ方、歌詞、出演者などの解説がなされている。

柳田国男『青年と学問』日本青年館、1928（昭和3）年4月28日

1928（昭和3）年4月28日に日本青年館から「青年修養叢書」の第三冊目として出版された。「青年修養叢書」の前二冊は政治学者である川原次吉郎の『人生と政治』と、小説家・随筆家である吉田絃二郎の『土と人と言葉』である。柳田国男がスイス・ジュネーブにて国際連盟委任統治委員をつとめてから帰国したのちに各地で行った講演をまとめたものである。1931（昭和6）年12月20日に、『郷土研究十講』と書名を改めて同じく日本青年館より再版された。

柳田国男『青年カード 都会と農村』大日本聯合青年団、1930年11月2日

青年カードとは、大日本聯合青年団が1929年10月から1941年11月まで教育を目的として月一回発行したパンフレットである。青年が社会人としての知識を身につけることが期待され、政治や経済・産業・歴史・文化・科学などのテーマについて著名な知識人が執筆している。形態は外四つ折り8ページとなっていて、袂やポケットに入れて気軽に持ち運び、休息などの合間に気軽に読めるように工夫されていた。小学校卒業程度でも読めるように平易な文章となっており、数字などを除いてほぼ全ての漢字にふりがなが振られている。

『青年カード 都会と農村』は、1929（昭和4）年に朝日新聞社から出版された柳田国男の著書『都市と農村』の内容を、より読みやすく修正して書かれている。のちに、柳田国男研究会編著『柳田国男・ジュネーブ以後』（三一書房、1996年）に収録され、小田富英が解説している。

蔵田周忠『日本民家の模型製作に就て』大日本聯合青年団郷土資料陳列所、1934年3月15日

農山漁村における在来の工法で建てられた民家の模型の製作方法を解説した本である。著者の蔵田周忠は、武蔵高等工科学校（戦後の武蔵工業大学）の教授を務めた建築家・民家研究者であり、ともに民家を研究していた今和次郎や竹内芳太郎とともに大日本聯合青年団郷土資料陳列所の民家展示の製作に参画していた。民家模型を製作する目的・意義、製作する民家の選び方と、紙やヘチマなどの手軽に手に入る材料から模型を製作する方法を写真入りで解説している。大日本聯合青年

団郷土資料陳列所にはこの方法によって製作された50分の1の民家模型が展示されていた。今日、今和次郎と竹内芳太郎が製作した徳島県祖谷の民家の模型が工学院大学図書館に現存している。

大日本聯合青年団編『郷土を如何に研究すべきか』日本青年館、1934年6月30日

郷土振興のためには郷土を正しく認識する必要があるとする考えのもと、青年団が郷土調査を実施するにあたっての参考・手引きとして編集された。全体は大きく4つの章に分かれている。「郷土調査とその動向」を地理学者の小田内通敏が、「青年団と郷土調査—附調査項目活用に就いて」を日本青年館の熊谷辰治郎が、それぞれ執筆している。「青年の見たる郷土調査項目」を編集するにあたっては、前記の小田内、協働会で農村調査に携っていた宮本倫彦、地理学者の柴三九男、野島治（経歴不詳）から援助を得た。「郷土調査項目事例」は、1933（昭和8）年8月に雑誌『青年』および『日本青年新聞』を通じて青年に向けて懸賞募集された郷土調査項目の当選したもののうち、代表的なもの7編を収録している。選定には、柳田国男、小田内、宮本が関わった。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『郷土資料陳列豫定』大日本聯合青年団、1934年（推定）

1934（昭和9）年11月2日に開所した大日本聯合青年団郷土資料陳列所に展示が予定されている具体的な資料と協力・後援者についてまとめている。編集された時期は記載がないため不明だが、資料の収集・寄贈を受けて展示の構想が固まった1934（昭和9）年夏頃にまとめられたと推測できる。展示する資料を提供した青年や青年団に加えて、知識人としては地理学者の小田内通敏と内田寛一、民俗学者の早川孝太郎、民間服飾研究家の宮本勢助、民家研究者の竹内芳太郎、工芸家の藤井達吉、神道学者の宮地直一、農業経済学者の小野武夫、考古学者の後藤守一などの名前が掲載されており、多様な人々の協力・後援による展示が構想されていたことをうかがい知ることができる。なお、実際の展示とは異なる部分もある。

柳田国男『青年カード 郷土研究の方法』大日本聯合青年団、1934年11月2日

青年カードの第三次第一部修養編の一つとして発行された（青年カードについては、『青年カード 都会と農村』を参照のこと）。内容は、郷土研究の意義の方法について説明している。文章のもととなっているのは、1928（昭和3）年に日本青年館から出版された『青年と学問』に収録されている、1925（大正14）年の長野県埴科郡教育会での講演「郷土研究ということ」である。1934（昭和9）年11月2日に行われた大日本聯合青年団郷土資料陳列所の開所に合わせて、予定を変更して同日付で発行された。のちに、柳田国男研究会編著『柳田国男・ジュネーブ以後』（三一書房、1996年）に収録され、小田富英が解説している。

大日本聯合青年団編『郷土染色に関する調査—中間報告—』大日本聯合青年団、1935年8月

全国各地において染色に用いた植物についての報告をまとめた謄写版の冊子である。「はしがき」によれば、前年に郷土的な染色に関する調査票を印刷・配布し、返ってきた報告を記録見本のため中間報告としてまとめたものである。報告は、植物の和名ごとに整理され、五十音順に配列されている。方言による植物名の調査は、広島県在住で一時的に上京していた山田次三が携わった。他に、高橋刀畔「八丈島の染色について」と、向山ちはる「草木染の方法について」が収録されている。中間報告となっているが、その後本書を補完する報告はなされていない。

大日本聯合青年団編『長崎県南松浦郡・南高来郡・北高来郡及熊本県天草郡地方に於ける若者宿娘宿調査』大日本聯合青年団、1935年10月

長崎県および熊本県の沿岸・島嶼部における若者宿・娘宿の民俗について、民俗学者の瀬川清子と関敬吾が調査した報告をまとめた謄写版の冊子である。「はしがき」には、「この調査は柳田国男氏指導の郷土生活研究所研究員関敬吾、瀬川清子の両氏に御依頼して出来たものである」とある。瀬川による「昭和十年八月九日 - 廿九日 若者宿娘宿聞書」と、関による「昭和十年八月十一日 - 十四日 若者宿調査報告一娘宿と関連して」の二部によって構成されている。なお、瀬川は本書の報告を一部修正したものを、『若者と娘をめぐる民俗』（未来社、1972年）に収録している。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『草木染展覧会目録』大日本聯合青年団、1935年11月

第3回全日本博物館週間を記念して1935（昭和10）年11月1日から7日まで大日本聯合青年団郷土資料陳列所で開催された草木染展覧会の展示物の目録である。冒頭には、「草木の葉や皮や根にこもる神秘を知るに最も相応しい草木染。一片の布によつて祖先幾千年の文化を知り、一本の草によつて新しい郷土工藝への暗示を受く。自然を貴び郷土を愛し労働と趣味と感謝とを一丸とした生活への緒である」と掲げられている。藍染や紫根染などの染色見本や、染色に用いる植物の腊葉標本などの展示物が記述されている。

大日本聯合青年団編『若者制度の研究 若者條目を通じて見たる若者制度』大日本聯合青年団、1936年8月20日

青年団以前の若者組織として位置づけられた社会組織についての研究である。1934（昭和9）年11月2日に、大日本聯合青年団郷土資料陳列所の開所式と合わせて開催された青年団発達資料展覧会に際して各地から出品された御条目や諸文書、資料、報告などを基にして執筆された。内容は、紙で残された文字資料を中心として、先行研究も参照しながら、若者の組織や若者宿、仲間生活、制裁、祭や消防・警備等の事業の事業などについて論述している。編集・執筆には主に野口孝徳と志村義雄がたずさわった。1968（昭和43）年に日本青年館から復刻版が出版されている。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『郷土工藝に関する研究報告』大日本聯合青年団郷土資料陳列所、1936年9月

1935年に大日本聯合青年団は、各地の郷土工藝についての調査研究に補助金を支出することを決め、『日本青年新聞』などを通じて応募者を募った。その中から選定され6名が補助金を受けて行った成果をまとめた報告である。山形県の亀綾織、北海道の開墾足袋、島根県の藤布、岩手県のカッコベ、青森県のイタヤ細工、山形県の紬織について報告が収められている。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『年表我国に於ける郷土博物館の発展（稿）』大日本聯合青年団、1936年（昭和11）年10月7日

著者は日本青年館の嘱託として大日本聯合青年団郷土資料陳列所の業務を担っていた大西伍一である。非売品であり、1936（昭和11）年に大阪で開催された第7回全国博物館大会に参加した大西が参会者に配布した。1752（宝暦2）年に神社境内で開催された菊花品評会から始まり、江戸時代の物産会・本草会から、明治以降の博覧会・博物館、さらには博物館に関する論考を年代順に列挙しながら、郷土博物館の社会的・思想的な系譜をまとめている。のちに、伊藤寿朗監修『博物館基本文献集 第6巻』（大空社、1990年）に収録された。

大日本聯合青年団編郷土資料陳列所編『郷土調査の仕方 附・参考書』大日本聯合青年団、1937年3月20日

1937（昭和12）年3月20日に大日本聯合青年団から発行された『青年教育時報』3月号の巻末に掲載したものを、一部語句を修正して抜刷りにしたものである。大日本聯合青年団郷土資料陳列所が、各地の青年から郷土の調査研究方法について照会を受けることがたびたびあったため、この小冊子を作成した。郷土調査を試みようとする青年の疑問に答える対話形式で叙述されており、目的と方法が平易にわかりやすく説かれている。末尾には、地理や社会経済、民俗、民話、民家に関する参考書が挙げられている。

大日本聯合青年団編『山袴の話』大日本聯合青年団、1937年5月31日

山袴とは、各地でタチツケ、モンベ、カルサンと呼ばれる労働の際の衣服の総称である。大日本聯合青年団が団員および同団が設置する郷土資料陳列所関係者に配布した山袴についての調査票に対する報告を民間服飾研究家である宮本勢助が整理したものである。報告者の氏名は、前記の『郷土染色に関する調査 中間報告』の報告者との重複しているものも多い。また、宮本勢助が東京および仙台の放送局にてラジオ放送で話した研究内容をまとめた「山袴の話」も収録されている。本書の元になった調査票を綴じた『山袴に関する調査資料』の簿冊が、神奈川大学日本常民文化研究所に収蔵されている。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『月報』大日本聯合青年団、1935～36年（推定）

大日本聯合青年団郷土資料陳列所の活動内容についての謄写版の報告である。館内および関係者に配布された。東京都市大学図書館蔵田周忠文庫に所蔵されている、1935（昭和10）年4・5月の活動を伝える第1号と、同年6月の活動を伝える第2号だけが現存を確認できている。内容は、各地の青年団の団体および個人の参観者、参観者による反響、寄贈・購入による新入荷品などによって構成されている。

大日本聯合青年団郷土資料陳列所編『季報』大日本聯合青年団、1937年

大日本聯合青年団郷土資料陳列所は1937（昭和12）年1月から、従来発行していた『月報』を改め、『季報』を年4回発行することにした。号数は『月報』から連続し、第7号から始まっている。東京都市大学図書館蔵田周忠文庫に所蔵されている第7号だけが現存を確認できおり、いつまで発行されたのかは不明。第7号の内容は、同所で開催された座談会・研究会や職員の調査・出張、資料の陳列替え、刊行物、主な団体参観者、購入・寄贈による新入荷品の報告によって構成されている。

【日本青年館・大日本聯合青年団民俗学関連刊行物】

画像番号	刊行物名	著者	発行	発行年	掲載画像所蔵施設
1	『郷土舞踊と民謡』一	日本青年館編	日本青年館	1925年10月26日	日本青年館
2	『郷土舞踊と民謡』二	日本青年館編	日本青年館	1926年4月16日	日本青年館
3	『郷土舞踊と民謡』三	日本青年館編	日本青年館	1928年4月13日	日本青年館
4	『郷土舞踊と民謡』四	日本青年館編	日本青年館	1929年4月15日	日本青年館
5	『郷土舞踊と民謡』五	日本青年館編	日本青年館	1930年4月15日	日本青年館
6	『郷土舞踊と民謡』六	日本青年館編	日本青年館	1931年4月15日	日本青年館
7	『郷土舞踊と民謡』七	日本青年館編	日本青年館	1933年4月11日	日本青年館
8	『郷土舞踊と民謡』八	日本青年館編	日本青年館	1934年4月13日	日本青年館
9	『郷土舞踊と民謡』九	日本青年館編	日本青年館	1935年4月5日	日本青年館
10	『郷土舞踊と民謡』十	日本青年館編	日本青年館	1936年4月8日	日本青年館
11	『青年と学問』	柳田国男	日本青年館	1928年4月28日	日本青年館
12	『郷土研究十講』	柳田国男	日本青年館	1931年12月20日	個人蔵
13	『青年カード 都会と農村』	柳田国男	大日本聯合青年団	1930年11月2日	日本青年館
14	『日本民家の模型製作に就て』	蔵田周忠	大日本聯合青年団郷土資料陳列所	1934年3月15日	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫
15	『郷土を如何に研究すべきか』	大日本聯合青年団編	日本青年館	1934年6月30日	個人蔵
16	『郷土資料陳列豫定』	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1934年(推定)	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫
17	『青年カード 郷土研究の方法』	柳田国男	大日本聯合青年団	1934年11月2日	日本青年館
18	『郷土染色に関する調査—中間報告』	大日本聯合青年団編	大日本聯合青年団	1935年8月	日本青年館
19	『長崎県南松浦郡・南高来郡・北高来郡及熊本県天草郡地方に於ける若者宿娘宿調査』	大日本聯合青年団編	大日本聯合青年団	1935年10月	日本青年館
20	『草木染展覧会目録』	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1935年11月	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫
21	『若者制度の研究 著者條目を通じて見たる若者制度』	大日本聯合青年団編	大日本聯合青年団	1936年8月20日	日本青年館
22	『郷土工藝に関する研究報告』	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1936年9月	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫
画像なし	『年表我国に於ける郷土博物館の発展(稿)』	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1936年10月7日	—
画像なし	『郷土調査の仕方 附・参考書』	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1937年3月20日	—
23	『山袴の話』	大日本聯合青年団編	大日本聯合青年団	1937年5月31日	個人蔵
24	『月報』第1号	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1935~1936年(推定)	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫
25	『季報』第7号	大日本聯合青年団郷土資料陳列所編	大日本聯合青年団	1937年	東京都市大学図書館 蔵田周忠文庫

日本青年館・大日本聯合青年団民俗学関連刊行物 表紙写真

解説

日本青年館および大日本聯合青年団が出版・発行していた民俗学に関連する書籍や小冊子などの刊行物の表紙画像を収録した。刊行物は大きく二つに分類される。一つは製本のうへ販売されていたものである。二つ目は、謄写版印刷とホッチキスどめの簡易なつくりのものであり、内部での閲覧もしくは関係者・希望者にだけ配布することを目的として作成されたと推定される。



1 郷土舞踊と民謡 一



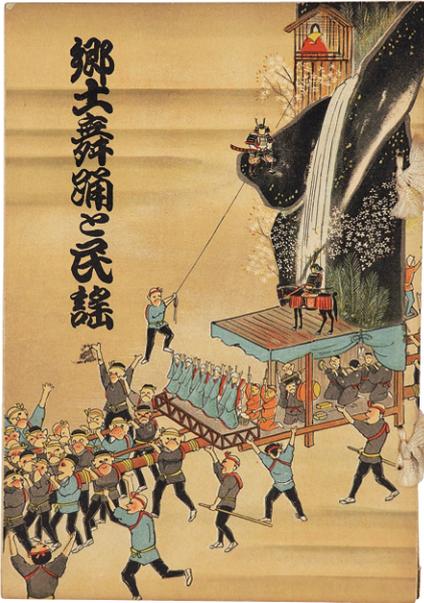
2 郷土舞踊と民謡 二



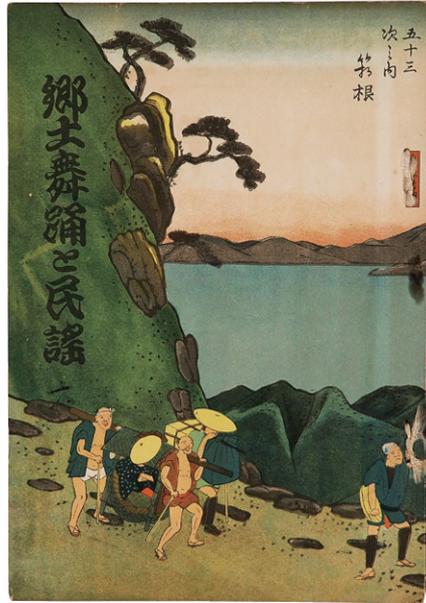
3 郷土舞踊と民謡 三



4 郷土舞踊と民謡 四



5 郷土舞踊と民謡 五



6 郷土舞踊と民謡 六



7 郷土舞踊と民謡 七



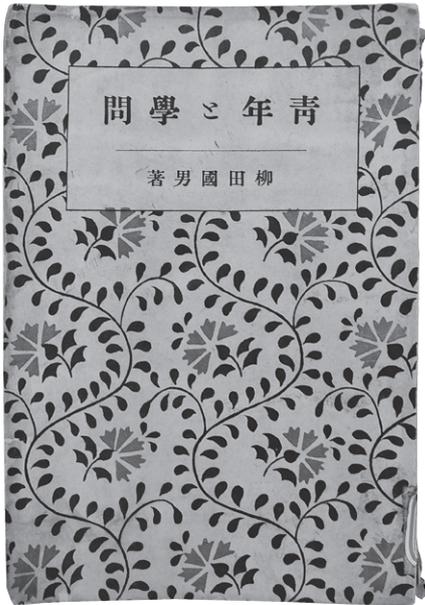
8 郷土舞踊と民謡 八



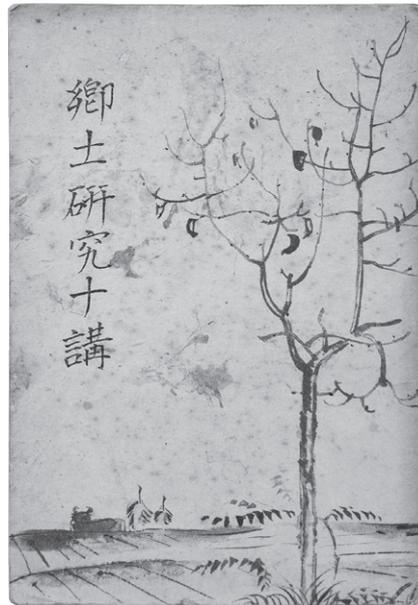
9 郷土舞踊と民謡 九



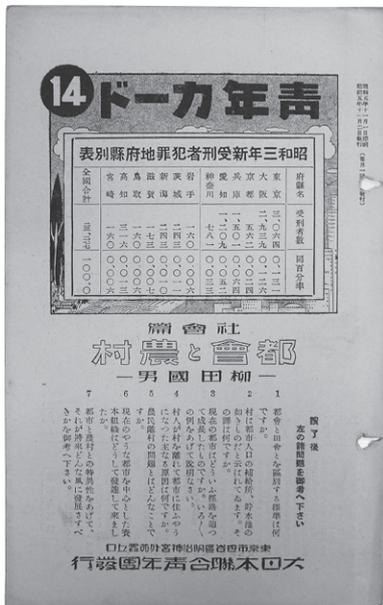
10 郷土舞踊と民謡 十



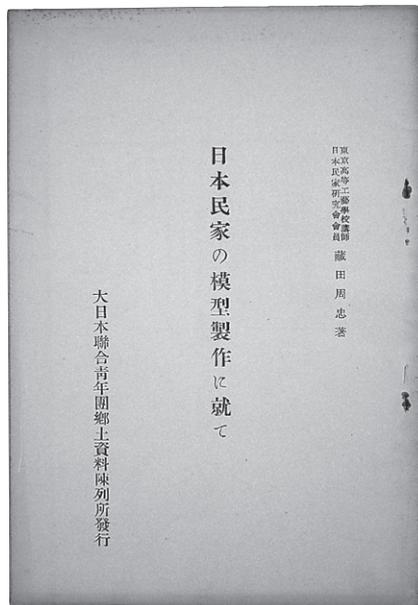
11 青年と學問



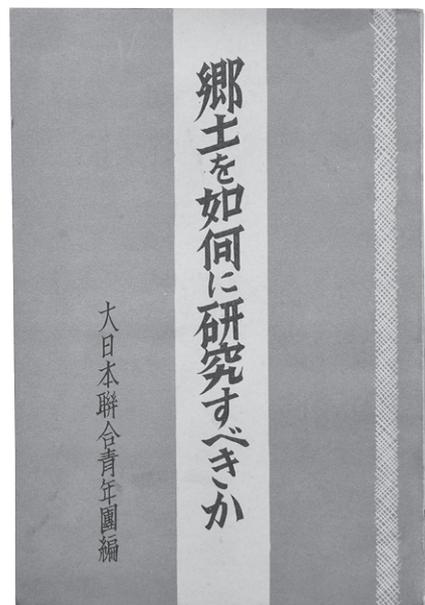
12 郷土研究十講



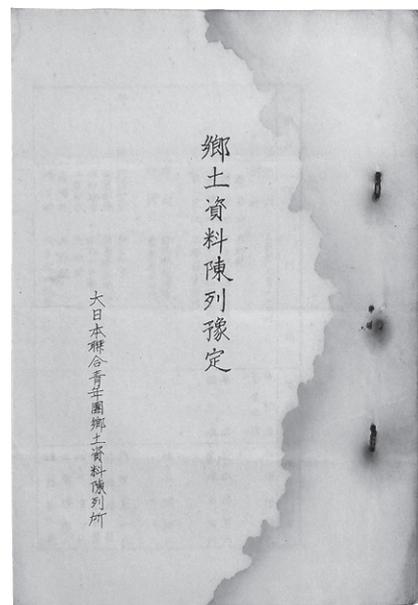
13 青年カード 都会と農村



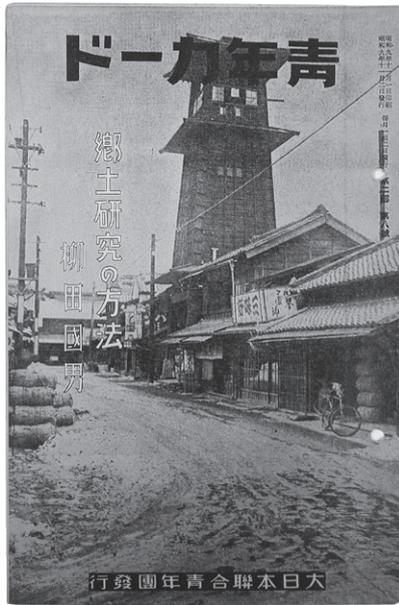
14 日本民家の模型製作に就て



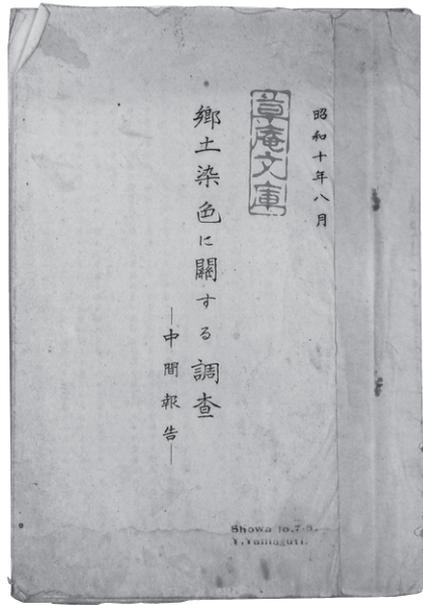
15 郷土を如何に研究すべきか



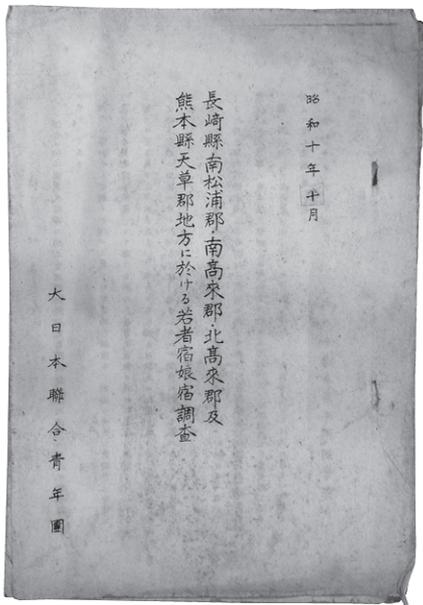
16 郷土資料陳列豫定



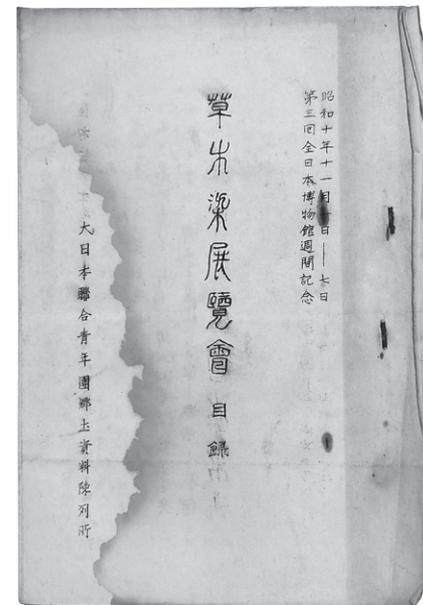
17 青年カード 郷土研究の方法



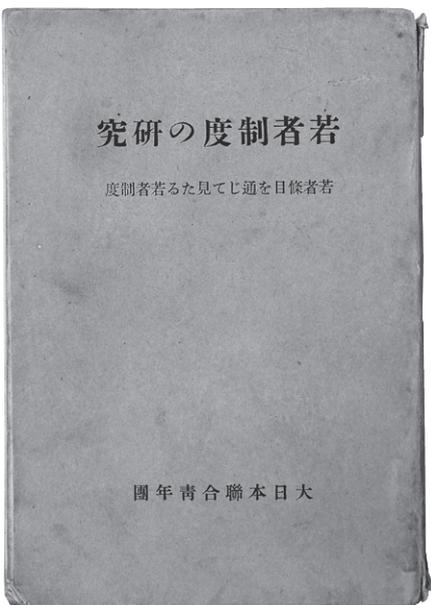
18 郷土染色に関する調査 中間報告



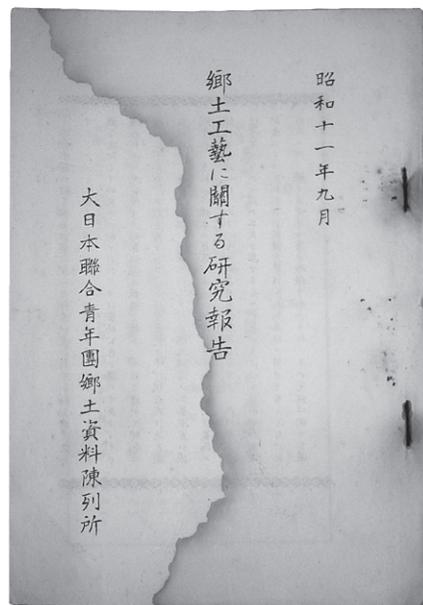
19 長崎県南松浦郡・南高来郡・北高来郡及熊本縣天草郡地方に於ける若者宿娘宿調査



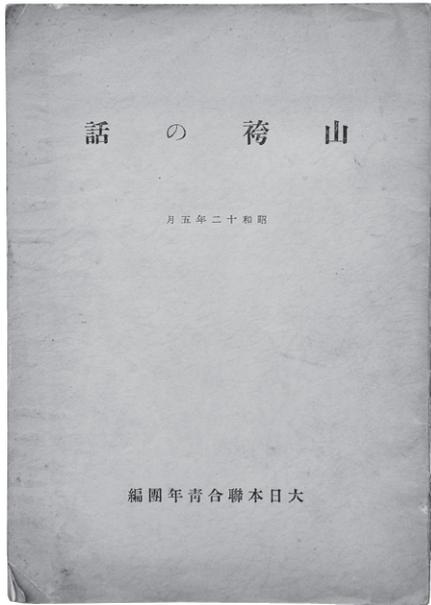
20 草木染展覧會目錄



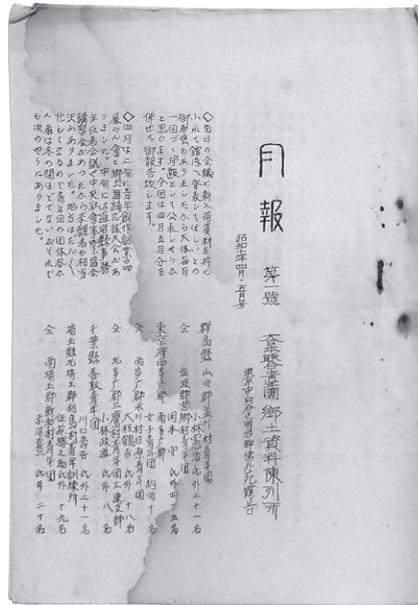
21 若者制度の研究 著者條目を通じて見たる若者制度



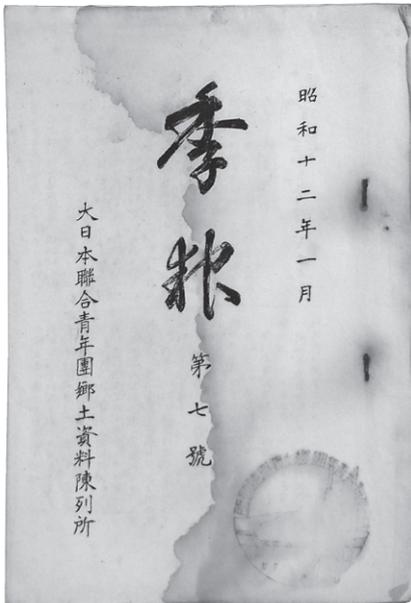
22 郷土工藝に関する研究報告



23 山袴の話



24 月報



25 季報